



千葉県初の配電線による電灯供給 千葉発電所

- 住所
千葉市中央区新宿2-1
- 交通アクセス
京成線千葉中央駅 約200m

■千葉県初の配電線による電灯供給

明治40年(1907)6月、千葉電燈株式会社は、千葉町字寒川1222番地*1(現・千葉市中央区新宿2-1)に設置した千葉発電所*2から町内へ、千葉県初の配電線による電灯供給(同年末で2147灯)を始めました。

*1:「千葉街案内」(M44年)による。

*2:電気事業要覧(第2回、M43)による

これは、東京・日本橋における日本初の電灯供給開始から20年後のことでした。

■当時の地図での場所

図1は千葉電燈が電灯供給を始めてから11年後、大正7年(1918)に地元の菅沼雄吉郎が作図した「千葉市街実測図(7千分の1)」です。

発電所の位置は、中央の赤丸印で囲ったところで、電燈株式会社と記されています。また、図3の地番図からも確認できます。

この図において、街並み(市街地)以外は、畑地と水田の記号で埋められています。

次に鉄道については、上部に弓なりに走っているのは総武鉄道で、明治27年(1894)に東京・錦糸町~佐倉間が開通しました。この時の千葉駅

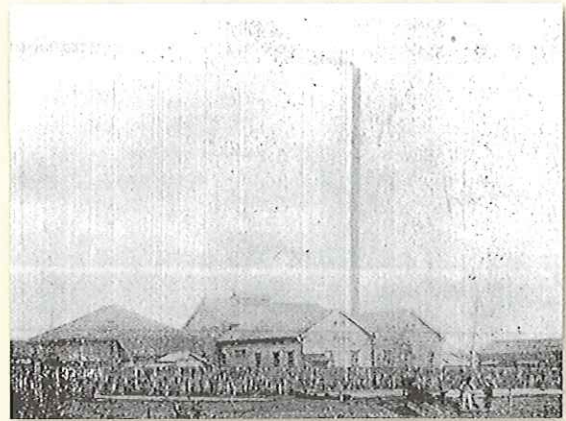


写真1 明治44年頃の千葉発電所
煙突のあるのが発電所建屋、左端が本社建屋と推測されます
出典「千葉町案内」明治44年
国立国会図書館デジタルライブラリー

は右上の千葉停車場でした。右側に縦に走っているのは房総鉄道で、明治29年(1896)に千葉~蘇我~大網間が開通しています。右下には本千葉停車場がありますが、県庁などの公共機関へはこの駅が至近駅でした。

■現在の状況

大正時代の地図(図1)を参考に、現在の地図(図2)において千葉発電所の位置を追うと、鉄道

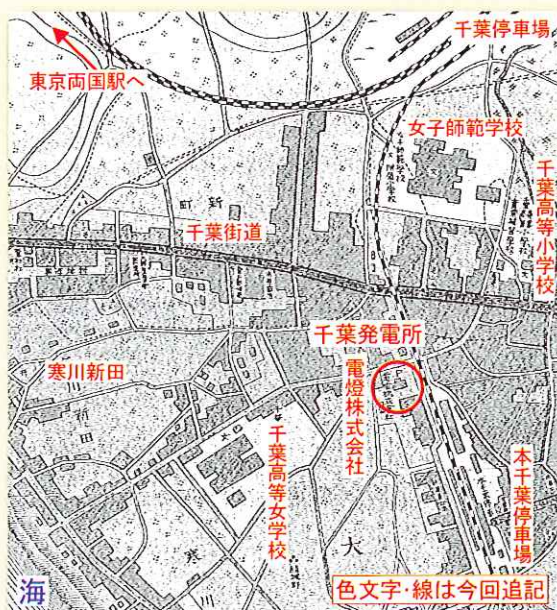


図1 千葉市街実測図 大正7年発行
出典 絵でみる図でよむ千葉市図誌 上巻
千葉市郷土博物館蔵



図2 現在の地図
国土地理院2万5千分の1地形図使用



図3 大正5年(1916)発行の地番図
 出典 絵でみる図でよむ千葉市図誌 上巻
 和田博夫氏所蔵(千葉市立郷土博物館図版提供)

と千葉街道などの道路区画に注目することで「千葉発電所跡」と記した赤丸印のところになります。

図1と比べると、海は沖に埋られ、畑や水田は市街地化されていますが、大きな変化として鉄道があります。本千葉停車場(本千葉駅)は、昭和33年(1958)に戦災復興の区画整理事業に伴い、蘇我側の現在位置へ移転し、その跡に京成電鉄の千葉中央駅が移ってきています。

千葉停車場(千葉駅)は、昭和38年(1963)に現在地へ移転しました。それまで、東京方面から蘇我方面へは、千葉停車場(千葉駅)でスイッチバックしていましたが、この移転によりストレートに行けるようになりました。また、それまでの千葉停車場(千葉駅)は、東千葉駅に名称を変えました。

現地を訪ねたところ、千葉発電所があったと思われる場所には、株式会社関電工の千葉支店があり、住所は中央区新宿2-1-24でした。

なお、建物の辺りを調べてみましたが、他県では見られた記念碑や当時を偲ぶようなものは見当たりませんでした。また、関電工千葉支店の方に、当時を偲ぶようなものが敷地内にはないかをお聞きしましたが、見当たらないとのことでした。



写真2 千葉発電所跡(現・関電工千葉支店)
 ・北東(鉄道線路)方向から撮影
 ・千葉電燈の本社建物も、同一敷地内にありました。

■発電所の設備概要

- ・汽缶 スターリング式 1基
- ・発電機 3相交流、2kV、75kW×1台、GE製

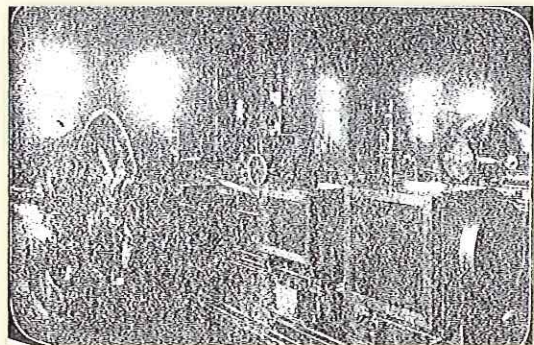


写真3 明治44年頃の千葉発電所機関部
 不鮮明で、写っているものが何なのか判別の難しいところですが、大きなフライホイールがあることから、蒸気機関ではないかと思われます。

出典「千葉街案内」明治44年
 国立国会図書館デジタルライブラリー

■発電所のその後

開業後の需要は順調で、翌年(明治41年)には150kWの増設をしました。

明治44年(1911)頃になると、新規申込みを断らざるを得ないような需給状況になり、さらに300kWの増設を計画しましたが、利根発電(株)から水力による低廉な電力の売込みがあり、買電に方針変更しました。これは千葉縣市川町で受電するもので、受電設備や市川~千葉間(約25km)に送電線を建設し、大正2年(1913)から受電しました。

その後、会社は、大正12年(1923)に帝国電燈に買収され、その3年後(大正15年)には東京電燈に吸収合併されました。

ところで、発電所がいつ頃まで稼動していたかについては、電気事業要覧の第6回(大正元年)から第10回(大正7年)の、設備概要の変遷をもとに推察すると、大正2年から3年の間で予備化、大正6年(1917)には廃止となります。

同発電所による千葉市街への電気供給は、10年間という短い期間でした。



写真4 千葉発電所跡(現・関電工千葉支店)
 南東方向から撮影